

高野町学びの交流拠点整備事業

公募型プロポーザル 結果の詳細について

1. 結果の概要

(1) 概要

「高野町学びの交流拠点整備事業（以下、「本事業」という。）」は、将来の人口ビジョンを見据えたコンパクトな小・中学校及びこども園としての機能を持ち、子供から高齢者まであらゆる世代の交流と社会教育の場となるような「高野町学びの交流拠点」を整備する事業である。

本事業を実施する民間事業者（以下、「事業者」という。）の選定に係る公募に関しては、設計及び施工を一括で発注する、いわゆる「デザインビルド方式」を採用し、また、効率的・効果的かつ安定的な業務遂行能力と高度な技術力を含む総合的なノウハウを有する受注者を選定するため、公募型プロポーザルによって最優秀提案者を決定することとした。

令和2年5月25日に公募を開始したところ、4社より参加表明があった。

令和2年11月5日に事業者によるプレゼンテーション及び審査を行った結果、満場一致で松井建設・安井建築設計グループが最優秀提案者に決定した。

(2) 事業スケジュール

本事業の事業者選定は下記のスケジュールで実施した。

	内 容	日 程
1	募集要項等の公表	令和2年5月25日（月）
2	事業予定地の視察	令和2年6月23日（火）
3	参加表明書等の提出期間	令和2年7月6日（月）から 7月10日（金）まで
4	技術提案書等の提出期間	令和2年10月16日（金）まで
5	プレゼンテーション及び審査	令和2年11月5日（木）
6	審査結果及び最優秀提案者の発表	令和2年11月17日（火）

2. 審査

1. 審査の流れ

審査に先立ち、高野町学びの交流拠点事業プロポーザル審査委員会事務局（以下、「事務局」という。）が募集要項等に記載された基本条件等についての確認を行った。次に、事務局が設置した学識経験者等で構成する「高野町学びの交流拠点整備事業 プロポーザル審査委員会（以下「審査委員会」という。）」の委員が、「選定基準」に基づき入札参加者から提出された技術提案書及びプレゼンテーションの審査を行った。

審査によって算出された提案評価点と価格評価点を合計した総合評価点を元に審査委員会で審議し、最優秀提案者となる事業者1社を決定した。

2. 審査委員

審査委員は次のとおり。なお、審査の公平を期すため審査終了まで非公開とした。

名前	区分	所属・肩書
信時 正人	有識者	・和歌山市特別顧問 ・ヨコハマ SDGs デザインセンターセンター長 ・株式会社エックス都市研究所理事 ・NPO 法人和歌浦湾海業代表 他多数
室崎 千重	有識者	・奈良女子大学 生活環境学部 住環境学科
尾家 和代	行政	・高野町福祉保健課長
戀中 淳悟	行政	・高野町校長会会長 ・高野山小学校校長 ・小中一貫推進委員会委員
松山 雄大	一般代表	・高野町景観審議委員会委員長
角濱 功治	一般代表	・地方創生評価検証委員会委員長 ・連合町内会長 ・学校運営協議会委員
児玉 万抽	一般代表	・高野山小学校PTA副会長 ・学校運営協議会委員 ・高野町教育委員会推薦
佐々木 基文	関係者	・高野山こども園園長 ・総本山金剛峯寺社会人権局長
大西 正人	議会代表	・高野町議会議長
菊谷 元	議会代表	・高野町議会議員

3. 審査結果の詳細

(1) 審査の結果

点 数	事業者名等	結 果
436.25 点	A 社 (松井建設・安井建築設計グループ)	最優秀提案者
421.01 点	D 社	次 点
377.81 点	B 社	
355.32 点	C 社	

以上の結果、優先交渉権者は松井建設・安井建築設計グループに決定した。なお、審査の公平性を確保する観点から、事業者名を公表せず匿名で審査を行った。

(2) 結果の詳細（最優秀提案者のみ）

① 価格評価の結果

最優秀提案者の金額及び価格評価は次のとおりであった。

	価 格 (税抜)	点数
A 社	4,270,000,000 円	90.16/ 100.00

② 提案評価点の結果

最優秀提案者の審査員ごとの得点及び提案評価点は下記のとおりであった。

● 審査員ごとの得点

A 社	委員 1	委員 2	委員 3	委員 4	委員 5
	352.50	351.25	341.25	330.00	341.25
	委員 6	委員 7	委員 8	委員 9	委員 10
	390.00	320.00	357.50	360.00	335.00

● 提案評価点

	提案評価点
A 社	346.09 / 400.00

※ 提案評価点は、最高得点と最低得点を付けた者を除いた 8 名の得点の平均で算出する。

③ 提案内容ごとの得点

最優秀提案者の提案内容ごとの得点及び4社の平均点は下記のとおりであった。

大項目	小項目	配点	A社合計点	他社平均点
1. 事業計画に関する事項				
	(1) 基本方針・工程計画	30	27.38	21.88
	(2) 実施体制等	30	25.75	19.67
2. 設計に関する事項				
	(1) 基本条件	40	35.88	34.38
	(2) 配置・動線計画	40	38.00	30.33
	(3) 子育て・学習・生活環境	45	37.63	33.75
	(4) 安全性・防犯・防災	30	25.00	21.17
	(5) 社会性・地域性・景観	35	31.88	25.50
	(6) 省資源・省コスト	25	20.63	18.08
	(7) 省エネルギー・持続可能性	35	31.88	24.21
3. 建設に関する事項				
	(1) 施工計画及び施工管理・品質管理	35	28.13	23.13
	(2) 周辺環境への配慮	15	13.50	9.13
4. その他加点項目				
	(1) ヒアリング	10	8.00	6.25
	(2) 地域経済への配慮	10	8.50	7.00
	(3) 提案の魅力性	10	8.25	6.42
	(4) その他	10	7.50	6.67
合 計		400	347.86	287.54

※ A社合計点及び他社平均点は審査員10人の点数をそのまま合計・平均したものを掲載している。提案評価点とは算出方法が異なるため、合計点は一致しない。

※ 小数点は第3位を四捨五入している。

4. 講評

高野町学びの交流拠点整備事業

プロポーザル審査に関する講評

高野町の現在の課題を解決し、未来の高野町を規定していくことになる、学びの交流拠点整備事業のプロポーザル審査を終えました。

私は審査員長としてその責任を感じつつ、プロポーザルのそれぞれを丹念に読んで審査会に臨みました。ほかの審査員の皆さまもそれぞれの立場や専門性を持ちながら、町の将来を見据えて、責任を感じつつも真剣に審査をされました。学識経験者や、新しい教育方法を考えつつ、未来を背負っていく子供たちに如何にいい教育を受けさせてあげることができるか、その方法や環境を模索しておられる教育者の方々や、町のより良い景観や、地域のより良い福祉を考え実践されているの方々、大きな意味で子供たちを含む町の将来を真剣に考えておられるの方々、などで構成されておりました。皆様、必ずしも建築そのものの専門知識はなくても、それぞれの町を思う心をベースに、非常に真摯に審査に臨まれたと思います。プロポーザルを出してこられた四グループは、それぞれの特徴を大いに生かして真面目で魅力あふれる提案で、非常に熱意をもって作ってこられたレベルの高いものばかりと感じました。それだけに、これらを審査するのはやはり難しいし、事業としての変数も多く、細心の判断を求められる審査作業であったことは否めなかったと思います。町の思いを受け止め、限られた期間内でこれほど密度の高い提案をまとめていただいた各グループの方々には、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

提案グループのプレゼンテーションの審査会においては、皆さんから積極的に質問が飛び、皆さんの本プロジェクトに関する期待感が大きなことがひしひしと伝わってきたものです。私は、特にプロジェクトを進めていくにあたって、もし選定されたとして、事業者が、学校関係者等、実際に建物を使用されるの方々や地域の方々の意見や考え方をどれだけ積極的に取り入れようとしていくのかという姿勢と仕組みを共通に問うていきました。

長い時間をかけた審査会でしたが、各自の点数を集計したところ、2つのグループに一位の点数をつけた人が集中しました。そこで、その2グループについて、改めて討議を行いまして、最終的にAグループを全員一致で選定することになりました。

皆さんの話し合いの中で出てきた論点は大体において下記の通りでした。そして、当選者はそれらを現時点で最も満足していたと判断します。

- 1) 単に建物をよいデザインで建てて終わりというものではなく、世界遺産、密教の聖地として全国的にも有名な本町においての本施設の在り方、どんな存在にしていくのかというコンセプトがしっかりしていること。
- 2) 建設する地形の特徴などから導き出した納得のいく建物コンセプト。
- 3) 未来志向の効果的な教育が行われうるハード設計の在り方。
- 4) その中でも今回の大きなテーマでもある、子供たち、あるいは、地域の人たちのいろいろな層が、うまく交流ができる広場やオープンスペースの考え方。お互いのニーズを活かしあって邪魔しない関係性の担保。
- 5) 高野の産業振興（木材産業）にも資する。
- 6) 使用者や地域の人意見をヒアリングやワークショップで十分に取り入れていくはつきりとした姿勢と実践の担保。
- 7) 今後、地域と一緒にまちづくりに対しての姿勢を共有できる。

当選案は、「開く」、「交わる」、「守る」3つの壇に連なる新たな“まち”の「学び舎」というコンセプトの元、敷地を平面的にも断面的にも上手く使ったのびやかな計画となっており、高野町ならではの視点による様々な交流の場やしなかけを随所に散りばめる工夫や一部木造の採用、工事中の安全性確保に優れている点が特に評価されました。

数年後、この建物が完成するとおそらく全国からの見学者も多くなると思われます。その際に町の皆様が誇りをもって、紹介、案内のできるものに仕立て上げていくためには、これからの大事です。今回の結果が始まりです。町の皆様で、この施設を、教育を中心とした交流の拠点として縦横無尽に使いこなし、そして、未来の高野町を、そして日本を支える子供たちの故郷としての価値をどんどん付加していけるような施設になるように考えて行動していただければ審査員としては望外の喜びです。

付加して申しますが、上で完成と書きましたが建物がハードとして完成しても、実はそれからの正念場です。本当の意味での完成はありません。

その施設を使ってからがまちづくりの本番になっていきます。その後も育っていく施設として、世界にも誇るべき聖地の中のシンボルの一つとして、そして、町の皆様が誇りを持つ施設としてこの施設が存在できれば、我々としても本望です。

これからの企画、設計、建設期間、そして、建物としての完成後も含めまして、町の皆様にはご注目いただければありがたいと思います。

高野町学びの交流拠点整備事業 プロポーザル審査委員会
審査委員長 信時 正人